



「NO!スポハラ」サミット 2024 を 開催しました

～「NO!スポハラ」なスポーツ環境のために私たちがすべきこと～

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境づくりを行う JSPO(正式名称:公益財団法人日本スポーツ協会 東京都新宿区/会長 遠藤利明)は、2024年3月17日に、『「NO!スポハラ」サミット 2024』を開催しました。

JSPO はじめとする本活動の主催 6 団体は、「NO!スポハラ」の価値観を広げるため、2023年度、さまざまな取り組みを行ってきました。

本サミットでは、その内容を振り返るとともに、各スポーツ団体、チーム、個人などスポーツに関わる全ての人が、スポーツ現場からスポハラをなくすためにできることをそれぞれの立場で考え、次年度以降も積極的かつ継続的に、より一層、「NO!スポハラ」活動の賛同・共感の輪を広げていくためのイベントとなりました。

当日は、約 700 名の方にご参加いただきました。

本サミットでは、プレイヤーの主体性を尊重し、より高いレベルの野球を愉しもうという「エンジョイ・ベースボール」の旗印を掲げ、2023年夏の甲子園(全国高等学校野球選手権大会)で107年ぶりに優勝を成し遂げた慶應義塾高等学校野球部監督の森林貴彦さんに、『「スポハラ」の無い指導でプレイヤーの主体性を育む』をテーマに基調講演をいただきました。

講演では、野球を通じて、“野球力の日本一”を目指すだけでなく、“人間力の日本一”も目指すのが指導者としての信念であり、その信念の極意を野球の試合(9回表裏、全18項目)に例えてお話いただきました。



▲基調講演の様子(森林貴彦氏)

	表	裏
1回	成長至上主義	自分で考える
2回	人は自ら育つ自ら伸びる	任せて、信じ、待ち、許す
3回	「何をやるか」ではなく「何のためにやるか」 全ての行動に目的意識と意図を	独自の視点を持つ
4回	フラットな組織を築く	伝統を創る
5回	人を巻き込む	プラス思考
6回	スポーツマンシップを身につける	二者択一ではなく両立を目指す
7回	練習や準備が「試験」 試合は「答え合わせ」	伝えたいことを絞る
8回	ミスしても勝つ	運や勢いを味方にする
9回	質を追求する	指導者も選手も日々成長

▲指導者としての信念

続いてのパネルディスカッションでは、

大阪体育大学の土屋裕睦さんをファシリテーターに、パネリストには基調講演に続けて森林さん、アテネ・北京五輪柔道金メダリストの谷本歩実さん、パラ・パワーリフティング選手であり現役大学生の森崎可林さんとともに、2023年9月に開催した保護者向けワークショップに参加いただいた篠田ゆりさんに保護者の立場から加わっていただき、『「NO!スポハラ」なスポーツ環境のために私たちがすべきこと』をテーマに、スポハラを根絶するためにそれぞれの立場で何ができるのか、意見交換を行いました。



最後に、本活動の主催6団体が2024年度以降も連携して活動を推進するため、主催6団体の代表による「スポーツ・インテグリティの確保に関する協力覚書」へのサインを執り行いました。この協力覚書では、本活動の目的である「スポハラをなくし、誰もが安全・安心にスポーツを楽しむ社会を築くこと」を2033年度までに達成するため、2028年度までに調査において「いかなる理由でも指導者・コーチによる不適切な行為があってはならない」と回答する割合を100%とすることを目標に、各種取り組みを行うこととしています。



▲協力覚書サイン(左から JPSA 河合純一常務理事、JOC 星香里常務理事、JSPO 森岡裕策専務理事、日本中体連齊藤正富会長、全国高体連奈良隆専務理事、UNIVAS 池田敦司専務理事)



▲パネルディスカッション登壇者

(左前:篠田ゆり氏、右中央:森崎可林氏、右前:谷本歩実氏、左後:土屋裕睦氏、右後:森林貴彦氏)

■オンデマンド配信

本サミットの様子は、後日、「NO!スポハラ活動」特設サイト▼にてオンデマンド配信します。

<https://www.japan-sports.or.jp/spohara/event/#cont03>

■イベント概要

◆開催日時:2024年3月17日(日)13:45~17:10

◆開催形態:会場参加およびオンライン参加(Zoom ウェビナー)形式併用

◆対象:スポーツ団体関係者、一般の方(指導者、選手、保護者を含む全ての方)、メディア関係者

◆参加者数:685名(内、オンライン604名)

◆プログラム:

時間	内容
13:45	オープニングセッション(主催者挨拶など)
13:55	2023年度「NO!スポハラ」活動の振り返り発表
14:30	<u>基調講演</u> テーマ:「スポハラ」の無い指導でプレイヤーの主体性を育む 演者:森林 貴彦 氏 (慶應義塾幼稚舎教諭、慶應義塾高等学校野球部監督)
15:25	<u>パネルディスカッション</u> テーマ:「NO!スポハラ」なスポーツ環境のために私たちがすべきこと ファシリテーター: 土屋 裕睦 氏(大阪体育大学教授、「NO!スポハラ」活動実行委員会委員) パネリスト: 森林 貴彦 氏(慶應義塾幼稚舎教諭、慶應義塾高等学校野球部監督) 谷本 歩実 氏 (オリンピック(柔道金メダリスト)、「NO!スポハラ」活動 実行委員会委員) 森崎 可林 氏 (立命館大学学生、J-STAR プロジェクト パラ・パワーリフティング 1 期生) 篠田 ゆり 氏(「NO!スポハラ」活動 保護者向けワークショップ参加者)

16:50	主催 6 団体により「スポーツ・インテグリティの確保に関する協力覚書」へのサイン
17:00	クロージングセッション(主催者挨拶、PR 動画の放映など)

【「NO!スポハラ」活動について】

スポーツ界における暴力・暴言、ハラスメント等の不適切行為をなくすことを目指し、JSPO、日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラスポーツ協会(JPSA)、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、大学スポーツ協会(UNIVAS)の 6 団体共同にて、2023 年 4 月から実施しています。



■特設サイト <https://www.japan-sports.or.jp/spohara/>

◆JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会)について

JSPO は、1911 年 7 月に「国民スポーツの振興」と「国際競技力の向上」を目的に、大日本体育協会として創立。日本体育協会を経て、2018 年 4 月 1 日、現在の名称となりました。

JSPO では、国民スポーツ大会(旧 国民体育大会)や日本スポーツマスターズなど各世代を網羅したスポーツ大会の開催、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどスポーツをする場の創出、スポーツの楽しみをサポートするスポーツ指導者の育成、最新の医・科学に根差したスポーツの推進など、誰もが自発的にスポーツを「する」「みる」「ささえる」ための幅広い事業を展開しています。また、わが国スポーツの統一組織として、国や 60 を超える競技団体、47 都道府県スポーツ・体育協会など、様々なスポーツ関連団体・組織や個人と連携しています。

▶ ホームページ <https://www.japan-sports.or.jp/>

▶ 事業概要パンフレット

<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid57.html#09> (通読約 15 分)

▶ JSPO 中期計画 2023-2027

<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid149.html#01>

We support sport in Japan

JSPO OFFICIAL PARTNER

